

あつし塾長の

子のやる気 親の気づき

〇〇14



第1章 ゆとり教育世代の子どもの文化

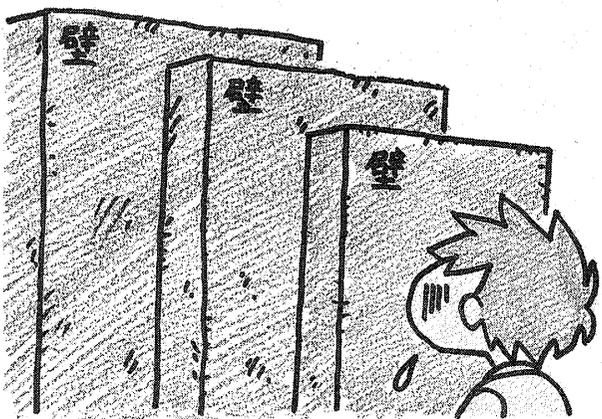
先週、今月入塾したばかりの中3男子のお母さまからの電話が入りました。「入ったばかりですが…返塾させてください」。あまりに唐突だったので「何かありましたか?」と私は事情を伺ってみました。「何か、自分でもやりたい勉強が見

親友

つかったみたいで…」とおっしゃいました。確か入塾の際の三者面談では「この子のやりたいことをやらせてみたいんです」とおっしゃっていたのですが、その夜の教室で、返塾した男子の親友に「〇〇君が辞めたけど理由を知っているか?」と話してみます。すると「えっ、辞めたんですか!」と驚いていました。「親友なのに知らなかった

互いに野心家でいよう

多感な時期の経験が大切



by yoriko

の?」と続けてみると「だってクラスも部活も違うし、他のクラスに入っちゃだめなルーラだし」と。そういう問題だろうかと思いつから、「親友じゃないの?」とさらに聞くと「親友かも」と語調が弱くなりました。「明日、廊下呼び出し、なぜ辞めたのか聞いてみればどう?」気にな

らないの?」と話したら「うーん、別に…」親友たかさんいるし、友達みんな平らだし」と。友達がいらいらと

「支えになってくれる人の存在は大切であり、その人に出会ってからの人生は明るくエネルギーギッシュになるで

は?

考えてみれば、確かに通塾の目的や志望校、そして何としても実現したい将来の夢など、一人一人別々の時代であり、親友のあり方も、無二の親友だったり、悪友であったりというよりは、むしろ心から理解し合える友達という「癒やし」の問題なのかもしれませ

ん。私はクラス全体に

テストで55番を目指すのとはちょっと違うぞ」と冗談を挟みながら話しました。クラスの半分の子どもが大

しょう。しかし、支えを求めただけでは甘い

ているだけかもしれない。親友とは、互いに傷付け合い、許し合

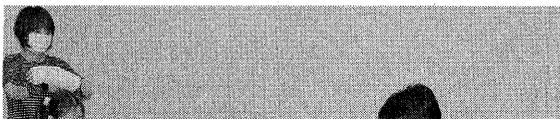
い、時にライバルであり、そして互いに野心家であるべきでは?」と投げ掛けてみました。

そして「野心とは、自分の身の程を超えた大いなる望みであり野望だ。例えば学年順位が60番の人が次の定期

いし、残りの半分がっられて笑っていました。小中高と多感な時期に、子どもは本当に目の前の障壁の解決を望んでいるのでしょうか。親に話すだけでストレスの解決になることもあるのに、わが子

がつまずいてはかわいそうと思う親の側の結論が早すぎて、経験を積み上げる機会を失っているのではないかと感じます。(畑山篤志学塾塾長)

親



不審者練習も! 一音羽

新1年生

登下校の手は気掛かりの解消へ、つを学んで京都内で聞のぞいた先月末、設に小学校子20組が集や保育所へてきた母頼に巻き込まか「ちゃいまで落ち差が漏れる。教室は、するステ

教育

ニュース なぜなに

は中身が面白かったというのでしょうが、それだけではなすすべです。まず、「1Q84」は村上春樹にとって、2004年以来的長編小説だったということがあります。ファンからすれば、待ちに待った大作だった



学賞「エルサレム賞」を